



Via Latina 22

2019年2月 277号

総本部よりのお知らせ－マリア会

インドでの終生誓願式



左から: D. Fleming 師, インド従属地区の霊生部長 J. Muthukattil 師,
アメリカ管区の管区長 O. Vasquez 師, S. Ravulapalli 士, インド従属地区
の地区長 S. Kujur 師, 副地区長 Darwin J. George 士と
アメリカ管区の副管区長 B. Ploeger 士

2019年1月12日、バンガロール・Deepahalliでのミサの中で、Showraiah Ravulapalli士が終生誓願を宣立しました。

アメリカ管区、管区長Oscar Vasquez師がミサを司式し、終生誓願を受け入れました。副管区長のBernard Ploeger士が説教を行いました。

マリア会員、彼の家族、友人、そして地元の修道会の司祭、ブラザー、シスター、約175名が終生誓願式に参列しました。

ローマでの助祭叙階式



マリア会の Peter Heiskell 新助祭と Ladaria 枢機卿

2019年1月12日土曜日の午後、メリバ管区の神学生Peter Heiskellは、ローマ法王庁教理省の長官であるイエズス会Luis Francisco Ladaria大司教によって助祭に叙階されました。叙階式はマリア会総本部の柱の聖母聖堂にて執り行われました。Ladaria大司教は長年に渡りローマのグレゴリアン大学で教鞭をとられました。彼はVia Latina 22のシャミナード国際神学校に多大な好意を持っておられ、しばしば助祭叙階の司式を行っています。この叙階式の列席者は、マリアニスト共同体のメンバー、Peterの家族、他のマリアニスト家族の枝のメンバー、そしてローマに住むPeterの友人たちでした。

Ladaria大司教はその説教で、Peterの生活の中だけではなく、この場に参列している全ての人の生活における聖霊の現存と力について強調されました。聖霊は、他者への奉仕、特に貧しい人、苦しんでいる人への奉仕に寛大であるようPeterと私たちすべての人に呼びかけています。更に、Peterは福音を宣べ伝えるよう召されています。この福音宣教はミサにおける福音の宣言を超えて、世に対する全面的な証しである生活にまで広がっていきます。最後に、大司教は、この奉仕全体と寛大さは共同体という背景においてのみ実り豊かなものであると強調されました。私たちはイエス・キリストに倣って真理と平和を築く者でなければなりません。

Peterに、助祭職への叙階おめでとう、と申し上げます。また、彼の司祭職への準備のためにお祈りしましょう！

コロンビア・エクアドルでの初誓願



左から: Silvio 士, 地区長 Carlos Julio Barragán 師
と Taisson de Jesús 士

マリア会、コロンビア・エクアドル地区は、最近、2名の若者の初誓願によって世にその存在と将来の発展の兆しを示しました。2018年12月12日、ラテンアメリカの保護者、特にコロンビア・エクアドル地区にて崇敬されているグアダルーペの聖母の祝日に、マリア会はボゴタの福者シャミナード小教区にてSilvio Panesso BailarínとTaisson de Jesús Domínguezの初誓願式を執り行いました。

Silvioはエンベラ族の出身です。このエンベラ族の共同体はコロンビアのチョコ県に位置します。マリアニストは、短期間リョロ小教区の司牧責任を含め、この地域にて長い間奉仕活動を行ってきました。

Silvioと一緒に初誓願を宣立したTaissonは、イツミナ・チョコにあるノアナマというアフリカ人を祖先とする共同体で生まれました。

TaissonとSilvioは2016年にメデジンで、最初の養成期間である前修練期を終えました。そしてそれに続く2年間、チリのサンチャゴで修練期を全うしました。

これら二人の新しいマリアニスト初誓願者におめでとう申し上げます。

スペイン管区・新管区長を任命

2019年1月初めに、総長評議員会はスペイン管区の新管区長の任命に関する管区のメンバーとの意見聴取を完了しました。Miguel Ángel Cortés師が新しいスペイン合同管区の初代管区長としての第2期の任期を終えるので、この意見聴取は特に重要でした。管区のメンバーはIñaki Sarasua Maritxalar

師の任命を圧倒的に支持し、総長評議員会メンバーはIñaki師にスペイン管区とマリア会への奉仕というこの呼びかけを受諾するよう要請することをうれしく思いました。



彼が謙虚な精神で承諾してくれたことに対して、また兄弟的な寛大さをもって進んでこの職務を引き受けようとする彼の気持ちに対して、私たちは感謝します。ごく最近までIñaki師は司牧活動部門の補佐として管区長評議員会のメンバーを務めていました。彼は1986年に初誓願を宣立し、1999年に叙階されました。Iñakiは、教師として、小教区司祭として、また管区本部で奉仕してきた豊富な経験をもってこの新しい任務に取り組みます。この管区長職への要請を彼が広い心で受入れられたことに感謝し、私たちは祈りと兄弟愛的協力を約束します。



同時に、2011年の新しいスペイン管区創設以来、管区長として多大な貢献をしてくださったMiguel Ángel Cortés師に対して、私たちはお祝いのことばを述べ、感謝を表明します。彼は評議員と共に、新しい管区を慎重に、賢明に、また溢れるような兄弟愛をもって導いて来ました。彼らが築いた土台は将来に渡り非常に堅固であり大切なものです。管区の多くのメンバーは彼の指導力に感謝を表明してきましたし、私たち総本部メンバーも同様です。現管区本部から新しい本部への移行は来たる9月になります。これらの兄弟たちとスペイン管区の全会員のために祈りましょう。

教皇フランシスコ、総本部に書簡を送る



DSM, 17 gennaio 2019

Reverendo Padre,

la ringrazio per il cordiale messaggio di saluto che, per il cortese tramite di mons. Leonardo Sapienza, mi ha fatto giungere a conclusione del capitolo generale di codesta congregazione della Società di Maria.

Il vostro cammino proceda sempre sotto lo sguardo della Madre di Dio. Gli occhi misericordiosi di Maria ci ricordano che per la fede è essenziale la tenerezza, che argina ogni tiepidezza. Una comunità religiosa che guarda al futuro senza questo sguardo materno è miope. Abiteremo la stessa casa ma non da fratelli. Occorre pertanto lasciarci guardare e abbracciare dalla Madre. C'è tanta dispersione e solitudine anche nella vita religiosa, ma il Vangelo ci assicura che Maria abbraccia tante situazioni concrete, è presente dove c'è bisogno portando rimedio all'isolamento e alla disgregazione. Ella ci insegna che per consolare non bastano le parole ma occorre la prossimità fraterna, sollecita e paziente.

Affido il delicato incarico da lei ricoperto alla Madonna affinché possa difendere l'intera congregazione dalla mondanità che vanifica lo spirito della preghiera, della povertà e della pazienza.

Quale segno di spirituale vicinanza e di gratitudine per il generoso dono di carità che ho riservato ai poveri, benedico di cuore lei e i confratelli.

Per favore, ricordi sempre di pregare per me.

Reverendo Padre
P. Michael McAWARD, S.M.
Assistente Generale per gli Affari Economici
Via Latina, 22
00179 ROMA



教皇様がふさわしいと思われる慈善活動に役立てるために、総本部がマリア会名義で毎年10,000ユーロを教皇に寄付することが、これまでかなりの期間、慣例となってきました。今年この寄付をする際、財務局長Michael McAward士が教皇フランシスコに、昨年7月にマリア会と総会に対して届けられた教皇の丁重なメッセージに対して謝意を述べました。

彼は教皇書簡の中の特に示唆に富んだ言葉に言及し、またそれらのことばが総会の代表者たちに及ぼした影響と、その結果として起った代議員たちの総会における働きについて述べました。

最近、Michael McAward士は教皇様から個人的返信を受け取りました。もともこの寄付は全会員の名義で行われたもので、教皇様の返信は私たち全員に適応できるので、以下にイタリア語の教皇様の返信を翻訳して紹介します。



2019年1月17日

マリア会財務局長

Michael McAward, S.M. 様

Via Latina 22, 00179 ROME

私は心のこもった挨拶に感謝します。Leonardo Sapienza大司教の丁寧な助力のお蔭で、皆さんの修道会、マリア会の総会の閉会について知ることが出来ました。

皆さんは常に神の母の眼差しの下に自分たちの道を進んでおられます。マリア様の慈悲深い目は、信仰を持つためにはあらゆる無関心に抵抗する優しさが必要である、と私たちに思い出させます。この母の眼差し無しに将来に目を向ける修道共同体は、長期的視野を欠いています。(もしそのような修道共同体であるなら)、私たちは同じ家で生活は出来るでしょうが、兄弟として生活することはできないでしょう。ですから、私たちは母に見守られ、抱擁されるようにしなければなりません。

多くの離散と孤独があります。修道生活においてさえそうです。しかし福音は、マリア様が多くの具体的な状況を活用し、必要なところにおいて、孤独と分裂を癒して下さる、と私たちに確信させます。マリア様は、慰めるためには言葉は充分ではなく、求められているのは緊急な忍耐強い兄弟としての親密さである、と教えてください。

マリア様が祈り、清貧、そして忍耐の精神を損なう世俗性から修道会全体を守ってくださるよう、私は皆さんが保持しておられるデリケートな使命を聖母に委ねます。

霊的な親しさのしるしとして、また私が貧しい人たちのために備えている皆様からの寛大な愛の寄付への感謝のしるしとして、あなたとマリア会員を心から祝福します。

私のために絶えずお祈りください。

フランシスコ

日本の修練院を訪問



修練院共同体と Foyer の若者たち
Pablo Rambaud 師と地区長 Jean-Baptiste Aoki 師（前列中央）

霊生局長、Pablo Rambaud師は、2019年1月15～20日、東京の修練院を訪問しました。昨年10月、日本地区は東京に国際的な修練院共同体を開設しました。当然のことですが、この修練院の開設は様々な言語的・文化的チャレンジを示唆するものです。

Pablo師は、アンドレア 高田師、グレゴリオ金士、マルチノ末吉師の養成者グループと初めての話し合いを持ちました。それに続く数日間、通訳のDavid Herbold士の協力を得て、彼は修練者3名、および養成者3名と面接を行いました。

また彼らは暁星学園の生徒の母、西村様が準備したティーセレモニーに参加する機会を得ました。彼らはまた、ある日の夕方、“FOYER”に出席しました。このFOYERは、シャミナード修道院の部屋で月一度集まる若い学生と社会人のグループです。



後列左より: Gregory Kim 士, Cau (修練者), André Takada 師, Martin Sueyoshi 師
と Le Xuan Thang (志願者)
前列左より: Nishimura 様, Raphaël Kitora 師, Pablo Rambaud 師, Sinh (修練者) と Doan (修練者)

“教会における未成年者の保護”に関する会議のために祈りましょう

(ローマ、2019年2月21～24)

教皇様の要請により、世界のすべての司教協議会の議長たちが、教会における性的虐待に対して新たな対策を真剣に考えるため、4日間、ローマに集まります。主催者は、“司教団の協力を通して、これらの虐待に関して教会が直面している様々な課題に対処することが出来る、と教皇様は確信している”と認めています。これは教会全体のための会議であり、従って私たちにとっても、これは良心の糺明の機会であり、回心の機会でもあります。

組織委員会と総長協議会の要請を受けて、私たちはこの会議が多くの成果をもたらすよう祈らなければなりません。

私たちの祈りを活気づけるために、教皇様の“神の民への書簡”から取られた幾つかの呼びかけを読み返してみましょう。この書簡は2018年8月20日に書かれたもので、この会議の精神を強調するテキストとなっています。

「祈りは、神の民としての私たちが、また許しを懇願し、慚愧の念と回心の恵みを願う罪人としての傷ついた私たちの兄弟姉妹が、神の御前に来るよう助けてくれます。こうして、私たちは福音と調和する方策を生み出す行動を見つけ出します。」(・・・)

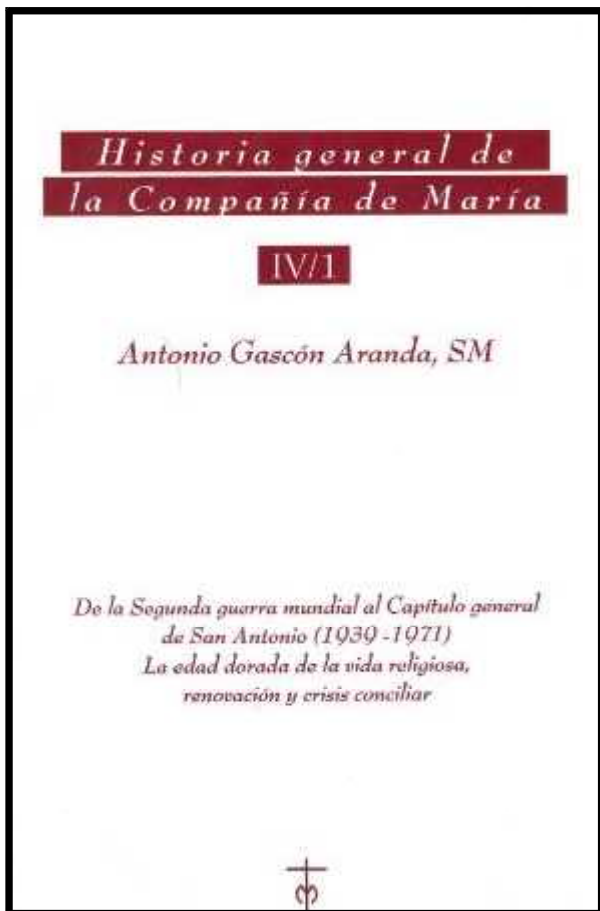
「私たち自身の罪と他者の罪の赦しを願いましょう。罪の自覚は、私たちが過去に犯した自分の過ち、犯罪、そして傷を認めるのを助けてくれるし、また現在においては、私たちが新たな回心の歩みにそってより心を開き、より熱心に取り組むようにしてくれます。」

「同様に、償いと祈りは私たちが自分の眼と心を他の人々の苦しみに開き、しばしばこれら悪の根元となっている権力と所有への強い欲望に打ち勝つよう助けてくれます。願わくば断食(・・・)が、権力の乱用、性的虐待、そして背信行為のあらゆる形態との戦いに対して、私たちを一新させ、全ての善意の男女および社会一般と一緒にあって、真理と愛にコミットするよう導きますように。」

「このようにして、私たちは、“神との親密な交わりと、全人類の一致のしるし、道具”(LG, 1)となるという私たちの召命をはっきりと示すことが出来ます。」

願わくば、私たち一人ひとり、一つひとつの共同体あるいは行政単位が、祈りによってこの会議を支えることが出来る方法を見出すことが出来ますように。」

マリア会の一般史：第二次世界大戦～サン・アントニオ総会 (1939年～1971年)



マドリードのマリアニスト出版局は2018年にAntonio Gascon師の著作「マリア会歴史」第4巻を出版しました。この第4巻（Part I）は重要な歴史的時期を取り上げています。わずか32年の間に、マリア会は、オーストリア・ドイツとスペインでの宗教迫害とそれに引き続いて起こった第二次大戦での数々の死者と物的破壊から、1950年代と1960年代の驚異的な再建と事業の拡大、及び修道者と志願者の数の増加へと変貌を遂げました。

新たな管区が創設されました。マリア会はラテンアメリカ、アフリカの新興国、韓国、オーストラリア、アイルランド、そしてレバノンで新しい事業を始めました。このすばらしい発展はカトリック学校の“黄金時代”と名付けられました。この時代は教皇ピオ12世治世下のカトリシズムの名声と一致していました。

今回の著作は修道会の会則の刷新を命じる第二バチカン公会議へと続いています。この公会議は私たちマリアニスト・カリスマに新たな神学的表現を与えました。公会議はまた、特に第二次大戦後に続いた大きな経済的、文化的、社会的発展から起こった行動思考

様式と関連して、修道者自身の生活様式を変えました。第4巻Part Iは、マリア会が公会議の刷新を完全に受け入れたサン・アントニオの総会（1971年）で終わっています。

この第4巻Part Iはまたアメリカ合衆国とカナダのマリア会諸管区の歴史的発展について、また南米のアルゼンチン、チリ、コロンビア、そしてアフリカ、オーストラリアでのマリア会創立について、更にはスペインの2管区への分離とが記述されています。

第4巻のPart IIでは、ヨーロッパの他の諸管区と日本管区を記述します。加えて、Part IIはマリア会員が植民地時代から独立した他のアフリカ諸国に向かう新たな歴史的時代を取り扱います。

祈りの意向：福者シャミナードの執り成しによるノベナの祈り

- 癌性の脳腫瘍に罹ったヨハネ・マリア・ヴィアンネー渡辺勝之氏（61才）の治癒。渡辺勝之氏は横浜教区の大和カトリック教会の信者です。以前、マリア会がその小教区の司牧を担当しました。彼は日本のマリアニストの長年の友人であり支援者です。祈りの意向は日本地区の清水一男師からの要請です。

総本部日程

- 2月03日～19日：総長評議員全員がコロンビア・エクアドル地区訪問
- 2月20日～3月11日：総長評議員全員がペルー地区訪問

最近の総本部通信

- 訃報：1号～8号
- 1月05日：列聖請願者、Antonio Gascon 師から全マリアニスト修道者へ、福者アデレのための3か国語での特別な典礼テキスト（暫定的）を送付
- 1月21日：教育局長、Maximin Magnan 士から全教育部長と行政単位責任者（ラテンアメリカを除く）宛てに、2019年のマリア会教育要覧のための情報提供が要請されました（3か国語で）
- 1月30日：財務局長、Michael McAward 士から全マリアニスト修道者宛てに3部門No150, 2019年マリアニスト連帯基金とマリアニスト養成基金のための基金配布を通達（3か国語で）